

木工塗装から見た欧州のトレンド

Trend of the Finishing Systems for Woodworking in Europe

高橋 富雄

キーワード：ハイグロス、デジタルプリント、UV-R LED（コールドライト）、
テクスチャープロファイル（スタクチャー模様）、木製窓枠塗装

Keywords: Degital printing, Highgloss, Hot coating, UV-R, LED-UV

はじめに

ドイツでは、戦後まもなくから森林から木材加工・木工分野に係わる世界的な大きな機械・家具資材見本市が開催されている。ここでは木工塗装に関連する機械の開発、新しい塗装技術の提案も毎回行なわれて、表面仕上げは重要視され、意匠・デザインも含めて注目を浴びている。この見本市は隔年に開催されており、至近ではリグナ・ハノーバー2013（国際木工・林業機械見本市：ハノーバー市／5月6日～5月10日）とインターツム2013（国際家具産業・木材加工専門見本市：ケルン市／5月13日～5月16日）が開催された。20数年継続して定点観測しているこの2つの見本市などから木工塗装から見た欧州のトレンドについて紹介する。

1. リグナ・ハノーバー2013

ドイツ、ハノーバー市で隔年に開催される木工林業機械分野の世界最大の見本市である。日本でもよく知られている。

今回見本市の開催日が変わり、リグナ・ハノー

バーが先で後述するインターツムが後に来る変則的な開催になった。例年のようにインターツムで新製品、提案をみて、次にリグナ展でその作り方を見るという流れが、逆になってしまった。

今回は11の展示ホール+屋外展示場（総展示面積 130,000 m²）に延べ52ヶ国から1,765社（団体等も含む）が出展し、90ヶ国より約90,000人が来場したと主催者から結果報告があった。少し残念ではあるが、展示ホールは明らかに減少しており、その反面、会場数からも見やすい展示であった。

前回（2011年）と同様に「リグナ・ハノーバー2013」のモットーは木工林業機械業の未来を展望「革新・ソリューション・効率—木をもっと利用する」である。

展示は林業・林業技術（屋外）、製材技術、木材パネル・ベニヤ製造、木材加工、家具産業、表面処理技術（塗装関連設備）、電動工具、ハンドワーク・クラフト、建具、家具製作業、大工職、木材加工、アクセサリ製作、補修業などの事業交流、木質バイオマスエネルギー分野である。

写真1はバルベラン（Barberan）社のインキジェットプリントと塗装ラインの展示である。主催者によれば、特注品への対応、品質の維持や持続可能性が、リグナ・ハノーバーのメイン

2014年2月11日受付
TAKAHASHI Tomio
東京大学アジア生物資源環境研究センター
環境材料設計学研究室